

平成30年度 第1回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成30年9月21日（金）午後3時30分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、田淵教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員

＜事務局＞

20人

傍聴者：0人

1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・平成30年度第1回目の総合教育会議になる。昨年度は教育日本一をめざす池田市の教育施策について、大変なご理解とご支援を賜った。ご教示をいただいた「いけだの教育がわかる本」が非常にわかりやすい本になっており、実際に池田市の教育が大きく前進をしているという評価をいただいているものと思っている。学力テストの方でもなかなか良い成績を上げてくれている。これで手を抜くことなく、予算の投入もしながら、教育委員会と心合わせをして、教育日本一をめざしていきたいと思っている。
- ・残念ながら、6月の大阪北部の震災に始まって、大変な災害に見舞われた。旧伏尾台小学校の擁壁や洪中や北中の渡り廊下の問題等、いろいろなところで被害が出ており、即予備費で対応したものや9月の補正予算で対応したものがあるが、子どもたちの日々の生活に大きな影響を及ぼすことがないように、対応させていただきたいと思っている。
- ・9月議会が開催中であるが、給食センターの建設用地の造成工事の請負契約、あるいは図書館の駅前への移転の予算等を計上している。
- ・本日は、平成30年度の教育日本一施策の進捗の状況、図書館・給食センター予算・進捗状況、平成31年度の教育日本一施策の展望・予算の方向性について、ご協議をさせていただきたい。わずかな時間ではあるが、熱心なご意見を頂戴できますようお願いを申し上げます。

2. 議事

・平成30年度教育日本一施策の進捗について

○事務局から説明。

- ・今年度の教育日本一予算で、広報冊子「いけだの教育がわかる本」を作成。1学期末の7月17日に市立の幼稚園・こども園・小学校・中学校・義務教育学校、全18校園の保護者、並びに各関係機関・団体等に配布した。冊子にはこれまでの教育の事業に加え、教育日本一をめざす新しい多様な取り組みを保護者はもとより広く市民に周知啓発を図る目的で、主要な事業の取り組みをまとめている。
- ・外部英語検定GTECを昨年度小6から中2の全員を対象に実施している。英検3級程度の英語力を持つ中学3年生は全国平均では、40%程度であるのに対し、池田市は64%という高い結果が出ている。しかし、中学校の調査では、依然として話す力（スピーキング）に課題があり、英語コミュニケーション能力の育成が必要であることが明らかになっている。

そこでオンライン英会話トレーニング（OST）を昨年はほそごう学園のみで実施したが、今年度は他の4中学校でも拡充して実施している。昨年度のほそごう学園の7年生のアンケートでは、トレーニングの回数を積み重ねることに英会話への関心が高まり、OSTの有効性が伺える。

- 教育委員の先生方の提案による小学校への専科教員の配置では、今年度は5つの小学校にそれぞれ英語リーダーとして、英語専科教員を配置し、英語指導の充実に努めている。
- 小学生が英語を学ぶ場の提供として、昨年度から実施している「はばたきイングリッシュ」は、今年度は保健福祉総合センターにて、10月より開講する。また暴風警報で中止をした「イングリッシュキャンプ」については、改めて11月に実施をする予定。
- 地域人材の活用については、一昨年度よりほそごう学園にて、地域にお住まいの方による放課後英語教室を継続して開講。保護者からは非常に高い評価をいただいている。
- ふくまるはばたき塾は、開講して3年目になるが、数学と英語の学習教室を希望者に無料で提供している。ここ数年間の全国学力調査における池田市の中学3年生の数学の結果は、毎年上昇しており、このはばたき塾による学力の底上げができているものと確信をしている。
- 幼稚園の通級指導教室は3年目を迎えた。対象教員3名が支援を要する5歳の子どもを個別またはグループで指導している。対象児童は公立の40名に加え、私立は6名。具体的には亀之森こども園が2名、五月山教会幼稚園、石橋文化幼稚園、友星幼稚園、天神保育園がそれぞれ1名ずつの合計46名。保護者からは「子どもの気持ちが前向きになりました」、「小学校でも頑張れます」などの高い評価をいただいている。
- 大型電子黒板の拡充・整備については、昨年度、大型電子黒板193台を小・中学校の普通教室に整備。今年度、石橋小学校、ほそごう学園で使用していた旧型を新型に交換するとともに、幼稚園・こども園にも1台ずつ整備し、幼・小・中で合計255台の整備が完了した。学校では日々積極的に電子黒板を活用した授業を実施し、ICTを活用した教員の指導力の向上と子どもたちの確かな学びが期待されている。
- ペッパーを活用したプログラミング学習では、4年生以上で授業を実施しており、今年度、NPO法人ロジカ・アカデミーと委託契約を行い、導入学年の4年生を対象に全クラス4コマ分の授業を行っている。結果、子どもたちは興味関心を高め、基本的な操作を身に着けることができています。また今月30日の社会人落語日本一決定戦でペッパーが落語を披露する予定であり、石橋小学校の6年生女子2名と秦野小学校の4年生男子1名が、現在「じゅげむ」のプログラムに取り組んでいる。これから、それぞれの学校の取り組みの工夫や課題等について、情報共有を図り、より良い活用をめざしてまいります。
- 今年度設置した「幼児教育サポートチーム」の活動の方向性としては、幼児教育の保育内容の充実と保育者の人材育成の2つを基本的な柱としながら、保・幼・小の連携、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの作成、私立の園訪問を3つのサブテーマとして現在活動している。現時点で公立、私立問わず、幼稚園、こども園、保育所等中心に頻繁に現場訪問し、先生方の保育の様子、子どもたちの様子等参観しながら現場の先生方の声、情報を収集している。また、園内研究会や研修会にも参加し、アドバイザー等が助言をしている。合同研修会も企画、開催をし、現場の教育力のアップにも力を入れている。今後、どの園に属している子どもたちも段差なく小学校に上がっていけるよう、また丁寧にその育ちをつないでいくためにも保・幼・小の連携、幼児教育における支援体制の構築等、この幼児教育サ

ポートチームの活動を今後充実させていきたいと考えている。

- ・幼児の知力・体力向上事業は、教育委員の皆さんからの意見を受け、平成30年度に新たに事業化し、予算は3,500千円である。現在は3つの施設で、各種事業を実施しており、今後も充実を図るとともに、幼児の知力・体力がどの程度向上したか、将来的には検証もしたいと考えている。
- ・池田市アスリート会議については、今年度も教育フェスタの中で、開催する予定。元阪神タイガースの八木裕さんには、本市のスポーツ顧問として、野球指導だけでなく、バスケットボールにも挑戦していただいている。また、中西悠子さんには、水泳指導を小・中学校で11回実施していただいた。この他にも様々な種目を実施するとともに、今後もいろいろと予定をしている。これら一流アスリートと直接触れ合うことにより、単なる技術向上だけでなく、キャリア教育の一助にもなると考えている。
- ・少人数学級の推進について、昨年度より小学校1年生から4年生まで35人学級編成を全校で実施している。そのうち今年度は3年生4校、4年生4校でそれぞれ学級増に伴う臨時的任用職員を配置した。35人学級を4年生まで拡大したことによる効果については、「個に応じたよりきめ細かな指導ができる」、「子どもが落ち着いて学習に取り組んでいる」、「発達段階でまだまだ集団で学習することが苦手な児童に対し個別指導がしやすくなった」等、高評価をいただいている。今後35人学級の効果検証を踏まえた上で、更なる拡充について検討してまいりたいと考えている。

<委員>

- ・中学生は学力テストの成績も徐々に良くなっており、はばたき塾の底上げによるものではないかとお伺いしたので、効果が出てきているのではないかと思う。
- ・直ちに目に見えて効果が上がってくることを数値化するのは中々難しいことが多いが、事務局からも説明があったとおり、実施されているそれぞれの事業が効果を上げてきているのではないかと思う。
- ・英語も学力テストの対象になってきているようだが、読み書きだけでなくリスニング・スピーキングも入ってくるということなので、学力テストが行われたら、池田市は英語も良くてできるという結果が出てくるのではないかと期待をしている。どういうところに重点的に予算を使っていけば良いのか、効果も考えながら、次年度どうすべきかを考えないといけないと思っている。
- ・図書館については、非常に良い場所に移転できるので、期待しており、折角なので従前の図書館のイメージに縛られないでいろいろな可能性を検討して、利用者が喜んで使えるような図書館にしていきたい。私どももいろいろ考えないといけないところはある。
- ・給食センターについては、立派な建物、設備を作ることになるので、給食を作るだけではなく、他に何か使えないのか考えていけばどうかと思う。来年から中学生にも同じような給食が出てくると期待していたところ1年延びてしまったので、期待も大きいと思う。その期待にも応えつつ、何か他の使い方も考えていきたい。

<委員>

- ・「いけだの教育がわかる本」は非常に良い資料を作っていただいた。もし可能であれば、学校

に通っていれば自動的に受けれるサービスと申し込まなければいけないサービスについて、コピーの折り込みでも良いので窓口と申し込み時期みたいなものが入っているとより利用者の方がわかりやすい。

- まだ全体ではないが、数字として効果が出そうなものが見えてきていることは、非常に素晴らしいことだと思う。英語に関しては、去年、大いに議論した英語の専科教員の配置は2年計画であったと思うので、引き続き増強を続けていただけたらと思う。
- はばたき塾は、中学校の成績が上がってきているというのが見えており、非常に素晴らしい。今後、小学校も含めて、広めていければ数字として出てくるというのが見えそうなので、出来る範囲で、どのようにしていけば良いのかという議論をさせていただきたい。
- 図書館はやはり大きな目玉になる。良い場所に設定いただいていると思う。やはり今後の大きな目玉として、是非成功させていただきたい。
- 給食センターは、国の予算との関係もあり、心配していたが、こちらの都合ではなく、国の都合もあり、難しいところは重々承知しているので、上手くやっていただきたい。

<委員>

- これまでの教育委員会の話題というのは、かつては中学校給食に始まり、耐震工事、トイレ改修、小中一貫だったが、昨年度やその前年ぐらいから教育の予算をたくさん付けていただけてから一気に英語教育といった本格的な教育に予算を付けて、それなりの成果が上がってきている。教育環境がどんどん進んでいると感じる。
- 「いけだの教育がわかる本」は、まず初めに英語がきており、一番の売りだと思っている。教育のスタートからもサポート体制が出来てきていることも大変有意義なこと。通級指導、幼児教育、小学校、中学校、はばたき塾等による支援と特に底上げに対しても大変力をいれていただいている。
- 核家族が増えており、子どもがひとりで過ごす時間が大変多くなっている。全国学力テストの中学校の成績については、はばたき塾の影響と自負しているが、支援があれば子どもはどんどん伸びると思う。例えば小学校はどうすれば良いか、予算の関係もあるが、親が家にいない環境がこれからも増えていくと思うので、勉強できる場を提供するというのも大切。
- 学力のみならずアスリートにも見ていただいている。全体の底上げと運動が得意な子どもも伸ばせる環境も必要。
- 池田市はマンションがいっぱい建っていくという環境になってきていると聞いている。これから新しい子育て世代が流入してくると思うので、「いけだの教育がわかる本」を市内の方だけでなく外にももっと池田市はこれだけ教育に力を入れていることをアピールして、子育て世代がこの新しいマンションに流入するよう、なおかつこれらを継続していただけるだけの税収も大事なので、外にもアピールしていただきたい。
- 図書館については、降って湧いたような話でこれまでの図書館問題を一気に解決に導いてくれていると思う。非常にいい方向に、また早いスピードで図書館がいい方向になっていると思う。

<委員>

- 英語教育の更なる充実ということで、オンライン英会話トレーニングに着目している。言語

の取得というものに関しては音声が大変重要であると考えている。一種の伝達においても、音声というのは文字と比べて歴史が深く、文化的な背景からも日本では和歌や俳句といった小説よりも音声の文化が浸透し、そういう面では音声が非常に重要な役割を果たしている。また、イギリスでは最も重要な文学であるシェークスピアは、すべて音声を媒介に演じられている喜劇である。舞台なしでは味わえないものということから実用的な観点、音声の重要性という点を踏まえて、指導していくことで深みのある英語教育となる。GTECでも英語のコミュニケーション能力が必要という結果が出ており、話すということに課題があり、中学生のオンライン英会話トレーニングというものが拡充したので、オンライントレーニングということに今後も期待をしたい。

- ・図書館というのは、静かにするところであまり騒がないというイメージを持っているが、今回新しくなることによって、フロアでは賑やかなゾーン、静かなゾーンと分けて計画いただいているので、そういう面では新しい交流の場、コミュニケーションの場となるよう期待している。それがあって言語習得につながっていくのではないかと思います。図書館の新しい形に期待をしたい。

<教育長>

- ・平成28年度に教育日本一に向けての予算ということで、特命に予算を付けていただいて、本年度はトータルで約160,000千円を平成27年度比で付けていただいている。
- ・4つの柱を立てて取り組んでいるが、1つ目は英語教育の推進、2つ目は幼児教育のサポート、3つ目は特色づくり、特色ある教育活動、4つ目は課題のある子ども等不登校含めた子ども支援、といった4つの柱で取り組んでいる。予算を何に投じていくかという中で、4つの柱に基づく各事業を事務局としてはしっかりと取り組んでまいりたい。またそれぞれの取り組みがあげていく成果も検証してまいりたい。
- ・図書館については、これまで抱えていた課題がかなり改善できるような駅前図書館を作っていきたい。池田駅で降りて池田市の図書館にちょっと行ってみようかと言っただけくらいに魅力ある、特色ある図書館にしてまいりたい。事務局としては、これまでの図書館協議会等で駅前への移設等について要望いただいております、次年度以降の教育日本一に向けた特命予算の一部を投じてでも図書館を駅前に移設をして、素晴らしい図書館にしたいと考えている。
- ・給食センターについても、造成工事に入っている。市長や副市長には、様々に中央政府に働きかけていただいている。補正予算につながっていくものと信じており、今後建設に向けて取り組んでまいりたい。

<市長>

- ・来年に対する展望、特に来年度の予算の方で英語リーダーの拡充、はばたき塾の小学校までの拡充、給食センターを多目的利用ができないかとの意見があったが、そのような展開も出てくるのではないかと思います。
- ・給食センターについて、平成29年度は残念ながら国の補正予算のメニューの中に給食センターという文字が入っておらず、全く除外されたというのが今回の例です。したがって、まず給食センターに注目をさせていただくために、中央陳情を行い、公明党の文部科学部会の浮

島とも子部会長を中心に、2名の議員さんと部長をはじめ官僚8名と一緒に池田市にお越しになり、現場も見ていただいた。現状の給食センターがいかにか老朽化しているか、実感していただいた。自民党の期成同盟会というところがあり、そちらにも要望させていただいた。そのようなことから平成31年度の概算要求の中には給食センターという文字が入り込んだ模様。ただし、当初予算で付く場合と補正予算で付く場合とで財源の手当てが全く違う。補正予算の方がなぜか有利な補正予算債という借金の方法があるので、我々の目標は平成30年度の補正予算で給食センターの予算が付いて、補正予算債が発行できるようにしたい。ただし、気をつけないといけないのは、今年の猛暑により、空調、特に避難所となる体育館が多いので、体育館の空調、そちらの方に目が行ってしまい、また給食センターという文字が漏れ落ちることがないように、これからも気を引き締めてさらに陳情活動をしていきたい。

- ・ 図書館の問題ですが、サンシティ池田の2階、3階はもともとダイエーの店舗あるいはダイエーの専門店街で、もともとはニッセイが床の所有者でした。3年ほど前にニッセイからM S Hという合同会社が取得したということを知り、そのころから同社が何の目的でその床を取得したのか、このまちづくりにどう携わっていただけるか、そのような協議を進めていたところで、サンシティ池田の2階、3階は撤退することになり、これは逆に同社としてはまさに会社の全てを投入して、英知を結集して池田駅前にふさわしい店舗構成をしたいと、そういう意味で出来れば文化ゾーンの中に図書館が入ってくれないかというお話でした。同社より図書館については坪単価5,000円で良いというような話になり、また現在の図書館あるいは公民館にある図書コーナーをまとめて移転してもほぼご利用いただける面積は変わらないようになっている。実際の面積は相当違うが、トイレ、エレベーターホール、機械室、廊下はサンシティ池田における共有スペースであり、我々が借入れする面積には入っていない。実際使える面積が約1,500㎡なので、その中で子育てを重点とした児童書ゾーン、賑やかな子どもたちの笑い声や笑顔が見えてくるような児童コーナー、そして奥の方に若干静かなゾーンを考えているが、実際この静かなゾーンをどのように演出するかがこれからの課題である。そのような形で約300,000千円を投入して、内装の工事にかかることになる。これも実は2040年人口減少時代を前にしてダウンサイズをしていくということに対して、最適化債という国の補助制度があるので、その最適化債を活用して300,000千円の内、何がしかの補助をいただけるよう、引き続き頑張っていくので、ご期待をいただきたい。

・平成31年度教育日本一施策の展望・予算について

○事務局から説明。

- ・ 来年度は特命予算の一部を新しく駅前に移設するサンシティの新図書館の管理・運営に充当したいと考えている。図書館は地域住民がもっとも気軽に訪れることができる公共施設であり、一定の集客力が見込まれることから単に本を貸し出すだけの施設からまち中の賑わいを創出する地域コミュニティの場としてそのあり方が変化している。駅前という立地を活かし、図書閲覧機能だけではなく、子育て支援機能や生涯学習支援機能など多種多様な機能を持たせ、他の施設や民間を巻き込んだ活動を展開していきたい。サンシティの中に図書館が入ると、ショッピングから図書館機能へ、また逆の流れもでき、高い相乗効果が生まれることと思われる。また阪急電車で通学する高校生や大学生が気軽に立ち寄ることができ、これまで

少なかった若年層の図書館利用も期待できると考えられる。また、児童書のコーナーも充実させ、親子連れの利用者が読み聞かせをして過ごせるスペース等も設けたい。駅前図書館の新たな事業展開により、市内外から、そして子どもからお年寄りまで多くの方が訪れ、楽しんでいただける池田市の新たな名所の1つとなるようにしたい。

- 来年度はこれまで取り組んでいた事業の内、より拡充を図りたい事業について特命予算の充当を考えている。平成28年度から3年間様々な事業に取り組んでいるが、例えば今年度から中学校区の5学園に配置した英語の専科教員の事業は、全小学校に1名ずつとなるように拡充したいと考えている。また気象警報により延期になりましたイングリッシュキャンプについても11月の実施状況を見て、拡充するかどうかについて、検討したいと考えている。その他ICT教育や幼児教育等その効果や成果についての現場の声も聞きながら事業の実施の改善や予算の増減について検討してまいりたい。
- 教育日本一検証会議の実施であるが、昨年度事業の効果検証をし、今後継続していく事業、方向転換していく事業、見直す事業、廃止する事業等シビアに検討していく会議の設置を考えておりましたが、市長から時期尚早でないか、教育はすぐに結果が出るものではないので来年度以降に考えてはどうか、というご意見をいただいたので、1年間保留しておりました。来年度さらに特命予算を上積みしていただけることになれば、教育日本一事業は4年間で総額200,000千円を超える事業となる。1円も無駄とならないよう全ての事業を点検し、教育日本一事業そのものをブラッシュアップして5年目につなげていきたい。
- 給食センターの多目的利用ですが、学校給食法で縛られている部分がありますが、給食施設だけではなく、地域の方も巻き込んだ形で何か検討できないか思慮しているところである。

<委員>

- 図書館の充実した事業展開が教育日本一にもつながることではないかと思う。図書館を利用することによって、言語の習得、深い学びというものにつなげてコミュニケーション能力、地域との交流というものも場所によってまちおこしになるのではというイメージも持った。駅前の図書館というのは、時代にも合っていると思う。そこにたくさんの方が集まることに関して、人の関心もそちらに向きますし、そしてそこで教育が充実していることが見えれば、なお教育に向ける池田市の取り組みが見えることだと思うので、そちらの方にどんどん傾いていていただきたらと思う。

<委員>

- 池田市としては、英語教育を表に掲げて、旗として、素晴らしい英語教育があることをアピールし、さらに進めていただきたい。
- 図書館では、よく学生が勉強をしていたことがあったが、そういうスペースはなかなか確保できないようなので、カフェとかが入るようであればそちらでゆっくり勉強ができるようになればいいと思う。やはりゆっくり本を読む場所も確保していただきたい。
- 給食センターですが、国からの補助も関係しているのであまり勝手なことはできないと思うが、歳がいくと昔の給食が懐かしく、食べてみたいという気持ちがわく方もいると思うので、別館みたいな食堂で給食を体験できるようなスペースがあれば利用価値が少し増えるのではと思う。

<委員>

- ・保育所、学童保育含めて子育てとの連携は良いが、解決しないといけない課題も結構あると思う。いろいろな課題を越えていくために、連携というよりもより知恵をしぼるようなところが非常に重要ではないかと思うので、我々も含めて、議論をして、もう一歩進むようになれば教育支援の底上げのところにも繋がると思う。
- ・予算のところは、いろいろな事業の中でもランニング経費的なものがある一定含まれており、その部分をどう担保していくかという話は出てくる。それによって今後の展開も変わってくると思うので、是非またいろいろご精査いただいて、その中で次年度以降考えていけるようお願いしたい。

<委員>

- ・特別予算について、次年度の展望のところですが、教育日本一ということで一番目に見えてわかりやすいのは学力が上がったということであると思う。中学校の方は学力テストの方も少しずつ良くなっており、はばたき塾の成果であると思うところであり、追加で予算をいただければ小学校も同じようなことをやってもいいと思う。ただし、同じようにトライに委託してしまうと相当なコストがかかるので、勉強の場を設けてアルバイトなりボランティアの方なりに見てもらうということでも良いと思う。やはり家庭状況調査を見ていると、家でテレビ見ている、ゲームしているというのが多いので、そういう機会を設けるだけでも、勉強の習慣がついて学力の底上げにつながると思う。
- ・幼稚園が無償化されるという話があるようで、そうなってくると3年保育にしたい方はどうしても私学に入れようとするので、公立幼稚園の希望者が減っていく可能性はある。そこについては、3年保育にするなり、できるのであれば3年保育プラス幼・小・中を一貫で教育をすることで、幼稚園での幼児教育にも力を入れて、スムーズに小学校から勉強をスタート出来るというようなことも考えながら、予算をそういうところに充てられないかと思う。
- ・事業の検証会議については、そろそろ検証していただいた方が良いのかなと思うが、事業の性質上、あまり数字にこだわらずに、特に幼児教育でいうと、いつ成果が出るのかということもあるので、数字だけではなくて、子どもたち、親、先生方等いろいろな方の率直な意見も聞いていただいて、事業を続けるべきなのか、もう辞めるべきなのかという判断をしていかないといけないと思う。検証にもコストをかけていただいて、丁寧な分析・検証をしていただきたい。

<教育長>

- ・これまで3年間取り組んできた中で、しっかり手ごたえ、効果が出ているものについては継続してまいりたい。
- ・特に英語教育については、専科教員を本年度5校に配置しており、これについては次年度10校配置をめざしてまいりたい。
- ・幼児教育の部分は、今後の公立幼稚園のありかたも含めて、「子ども・子育て支援日本一」の取り組みと重なってくる部分もあると思っており、この部分は力を入れて取り組んでまいりたい。

- ・はばたき塾の小学校版をやってはどうかというようなご意見もいただいたが、中学生については夜間に実施をしている。平成28年度からトライに委託して実施しているが、その前年度は市役所の会議室を活用して、退職校長先生などに見てもらい、そういう場所を作ったというのがこのはばたき塾につながっていていると思うので、小学校版をどう取り組んでいくのか、また夜間という問題もあるので、子ども・健康部が取り組んでいる放課後対策、留守家庭児童会、キッズランドとどう絡まって学習の場というのをやっていけるのかしっかりと考えていかないといけない。

<市 長>

- ・図書館は、平年度化して、平成30年度の図書館費と来年度の図書館費でどのくらい増えるのか、家賃も含めて教えていただきたい。

<事務局>

- ・家賃を除いて27,000千円少なくなる。試算ではあるが、家賃を入れると2,000千円ほど足が出るという計算。

<市 長>

- ・説明のとおり、今の本館が2階建てで、その分職員も必要であり、また公民館の図書コーナーにも当然職員がいるが、これをワンフロアにすることで、職員の若干の減も含めて、共有スペースの管理はビルが行うので27,000千円ほどマイナスになる。必要経費がいらなくなってくるが、その分家賃が必要なので、坪5,000円ということだと、約30,000千円必要。いろいろな交渉の結果、プラスの必要経費は5,000千円以内で収まる見込みとなり、教育委員会が仮に10,000千円を新図書館の予算に充てる算段であるとしたら、あと5,000千円は新図書館を使い、もう少し文化度を高めるようなまちおこしの事業ができると、そんな思いでもある。この辺は教育委員会として何がしかの手当てをしてくれるのかなと思っている。
- ・現給食センターでは80人分の試食コーナーができる食堂が上にある。問題はそこに1個ハンバーグを足していいかどうかであるが、試食なので別メニューはいけない。しかし、中学校給食が始まるので、中学生が食べる給食を400円のところを600円頂戴し、観光バスに持って行って食べれるとか、近所の人が食べる等、子ども食堂的な使い方ができるか検討しなければならない。もう1つの課題は半分休んでいるので、そこを何とか活用できるようなことを別で要望していかないといけないと思っている。
- ・子ども子育てについて、はばたき塾の小学校版ですが、子ども・健康部で放課後の児童見守り事業（新しい事業でトライに委託したもの）を、平成30年度に石橋南小学校でモデル事業として行う。トライが良いかは別として、この事業もモデルにしながら教育委員会が来年からはばたき塾の小学校版を考えることは不可能ではなく、予算的にもその程度の余裕は出てくるとしている。
- ・委員がおっしゃったようにマンションがいくつか計画されている。まだまだ子どもたちが、特に池田小学校区、呉服小学校区で増えてくるので、教育日本一をめざす池田市の教育を受けさせたいと思って来ていただけるような環境整備ができるのが大事である。

- 幼児教育の無償化は文部科学省、厚生労働省が来年10月から実施したいということで準備に入っている。全国市長会の大方の見方からすれば、再来年の4月から良いのではという意見もあるが、いずれにせよその時期がやって来る。私立幼稚園も含めて、幼稚園教育の無償化を訴えてきていました。ところが保育所の無償化を訴えてきていないのに、無償化になることにより保育ニーズが広がってくるので、子どもたちをどこが吸収するのかということも含めて公立幼稚園の3年保育の必要性や認定こども園も含めて、来年ひかりとなかよし認定こども園になるので、この辺りがこれから問題になってくると思っている。
- 検証会議については、ご意見のとおり誰が検証するのか、部内で検証するのではなくて、例えば保護者にも入っていただくとか、若干有識者にも検証していただくということも考えて、行うのであればコストもかけてしっかりとした方が良いと思うところである。
- 教育予算は、来年度も50,000千円足すと平成27年度比210,000千円になる。これは維持するのが前提条件である。この210,000千円というお金の中で事業をしっかりと検証して、それ以降必要であれば教育日本一予算を増やしていくことになる。教育日本一という目標を掲げた以上は着実に継続するということが大事なので、それは必ずさせていただこうと思う。
- 財政状況については、平成29年度決算では、財政調整基金は約50億円となった。50億円というのは池田市制施行以来最高額。去年も9億、おととしも9億という単年度で黒字を計上することができ、良い方向で動いている。ただし、給食センターやクリーンセンターの大型事業があり、石橋駅前会館の建替えもある。今の予定では、6階建てで2フロアに図書館が入る予定で、1,000㎡からの図書館が石橋にも出来る。大型事業が続きますが、いかに市民の税金を使わずに、国民の税金を使うような財政手立てをしていけるかどうか工夫しながらやっていく。教育は人が大事ですが、お金もかかりますので、そういう意味では、来年度もしっかり50,000千円プラス10,000千円、先生たちの枠を保証出来るような形で予算編成ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

3. 閉会